柏の芽

発行所
社会福祉法人
柏　学　園
広島県安芸郡府中町
青崎東7-12
TEL (082) 282-6500
発行人　米川　晃
印刷所
株式会社　中本本店
TEL (082) 221-9181

柏学園　七夕会

安芸柏の実苑通所部　サーカス観覧

瀬野三施設　サマーフェスタ

柏の実苑　夏祭り

共に生きるために

瀬野柏の実苑　苑長　竹本孝志

災害級の暑さと毎年のように言われている近年、今年の夏も例外なく、とても厳しい暑さとなりました。暑さの疲れが出てくる季節となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

瀬野三施設におきましては、昨年度より例年続けていた屋外での盆踊り大会をやめ、ＳＥＮＯサマーフェスタと題し、室内で行うイベントを中心に四日間続けて実施する行事に変更しました。今年のサマーフェスタは射的やお菓子釣りのゲームをはじめ、ステージでの発表、キッチンカーを招いてのスイーツビュッフェや屋台での買い物等、昨年度よりもグレードアップした内容となったことに併せ、最終日には家族の方にも参加していただき、利用者のみんなも笑顔が絶えず、厳しい暑さの中でもより楽しめたひと時となったように感じています。

さて今年度は三年に一度の障害福祉サービス等の報酬改定が行われ、制度の中身が見直されています。また改正された法律もあり、これまで努力義務であったものが義務化されたものもあります。

そのひとつに障害者差別解消法が改正され「合理的配慮の提供」が義務化されました。この「合理的配慮」とは、障害のある人の人権が障害のない人と同じように保障され、教育や仕事、暮らしの場等、あらゆる社会生活において障害の有無に関係なく平等に参加出来るように、それぞれの困りごとや生きづらさに合わせて、障害のない人が行う公正な配慮のことを言います。

当たり前のことのように思うかもしれませんが、人という環境も含め、今ある社会資源にはこの合理的配慮を行うための設備、環境が充分に整っていないのが現状です。瀬野三施設においても利用者皆が快適に生活していく為には、改善を考えていかなくてはいけない部分もあります。

また障害を抱える方への支援にあたっては「本人の意思を何よりも尊重すべきである」という意思決定支援の考え方も重要で、周りの人たちが本人の想いや考え方を根拠なく推測し先回りして付度し、勝手にこの合理的配慮を提供するわけにはいかないということもあります。難しい部分も多々ありますが、法人では浴室の改装をはじめ、合理的配慮に取り組みやすくするための基礎的環境整備も行ってくれています。

その中で私たち支援者は一人ひとりが更なる知識の習得や支援スキル向上への努力を継続し、利用者皆がこの社会において不自由さを感じることなく、快適な社会生活が送れることを目指し、今後も職員みんなで力を合わせ頑張っていきたいと思います。

幼児発達支援センター
柏　学　園
（所在地）
安芸郡府中町青崎東
７-12
TEL（082）282-6500

主に就学までの子どもたちが通って来ています。子どもたち一人一人の気持ちと発達段階を充分に理解し、ご家族の方々との話し合いを大切にし、親子共々希望と元気が出る療育を目指しています。

抱っこで安心、抱っこで成長

柏学園　古田　菜実

皆さんは『だっこ』にどんなイメージがありますか？甘えたい時、不安な時、好きを伝える時、「おいで～！」と大人が両手を広げた時、さまざまなシュチュエーションでの『だっこ』があると思います。

私は柏学園に入職し、その後母となり、子育てをする中で、一冊の本に出会いました。

それは親子のスキンシップについて研究されている山口創先生の『幸せになる脳は抱っこで育つ。』という本です。きっかけはあるテレビ番組で行っていた「くすぐりはくすぐったさを感じるために、くすぐる人とくすぐられる人の間の信頼関係が必要である」という実験でした。柏学園の療育の中でも、くすぐり遊び、スキンシップ遊びは、身近なものであり、大切にしてきたので、この実験はとても興味深いものでした。その実験の解説をされていたのが山口先生でした。山口先生の本にはスキンシップがもたらす効果や、皮膚と脳の関係、マッサージや触れ合い遊びの方法が書かれていました。

この本を読んで、たくさんの学びを得たと同時に、あらためて様々な抱っこの場面を振り返りました。子どもたちとの関わりの中で、私から積極的に「おいで～！」と両手を広げたところに子どもが走ってきて抱っこする、ギューっとハグする等、スキンシップ遊びがメインの大人発信の抱っこと、「もう歩けない…」「怖い」「いやだ」「悲しい」という気持ちの時に、子どもから要求する抱っこの場面があると考えました。同じ抱っこでも、大人が発信する抱っこは大人も子どももご機嫌な状態で、楽しく遊ぶ中で信頼関係を築いていく抱っこで、子どもから要求する抱っこは、大人が安全基地となり、守って欲しいと思う子どもの思いを受け止め、「○○だったんだね」と寄り添う中で信頼関係を深めていく抱っこの違いがあると思います。どちらにおいても、お子さん達の発達を把握し、心に寄り添い、楽しい遊びが提供できるよう精進してまいりたいと思いますし、スキンシップ遊びについても深く考えていきたいと思っています。

障害者生活支援事業
柏の実苑
（所在地）
安芸郡府中町青崎東
７-12
TEL（082）282-6500

19才から64才までの知的な発達に障害のある方達が、社会参加や自己実現を目指して家庭から通い、職業指導・生活援助を通して日中活動の場を提供しています。

意思決定支援を行う大切さ

柏の実苑　波谷　詞織

七月四日、五日に鳥取県米子市で開催された中国・四国地区知的障害関係職員研究協議会に行かせて頂き、社会参加に向けた意思決定支援というテーマの分科会に参加しました。

内容はグループホームで生活されている双子の姉妹が「手をつなぐ」という機関誌の障害者のファッションを考えるという企画で、買い物に出掛けたという話でした。それまで姉妹は、動きやすさ重視で母親が選んだ服を着ていたとのことでした。母親は姉妹に対してファッションに興味があるのだろうか、服より他の物に興味を持つのではないだろうかと疑問を持っていたようです。グループホームの職員が前もって服を買いに行くことを姉妹に伝え出掛けると、姉妹がそれぞれ着たいと思うワンピースや流行りの服を選ばれたようでした。自分達で選んだ服を着た姉妹に職員がメイクをすると「嬉しい。お化粧したかったの」と涙を流されたとのことでした。買い物で自信が持てたようで、それまでは消極的な性格だった妹さんが自分の考えを伝えられるようになったとのことでした。

以上の話を聞き、この人はこういう人だからこうだろうと先入観を持つのではなく、こういう事が得意かもしれない、ひょっとしたらこう考えているかもしれないと一人ひとりの思いを汲みながら、利用者みなさんの可能性を引き出せるような支援をすることが大切だと感じました。

障害児居住施設
瀬野川学園
（所在地）
広島市安芸区上瀬野
南一丁目338-3
TEL（082）894-8958

知的な発達に障害のある児童の居住する施設です。現在13才から18才までの9名が起居を共にし、基本的生活習慣の自立をめざしています。学齢児は特別支援学校や地域の小中学校へ通い、18才以上の人達は将来の社会的自立をめざしています。

よっしゃあ！

瀬野川学園　緑　美緒

「最後はもちろんこの曲、中村前園長の掛け声からつくられた、よっしゃあです。せーの！よっしゃあ!!」。音楽活動のラストは毎回この流れで、皆で大いに盛り上がって終わります。

音楽活動とは月一回行われる、その名の通り音楽の活動です。係の職員が楽器を演奏したり歌ったりして利用者の方へ音楽をお届けしています。私はこの係に入職してからすぐに就かせてもらい、これまで沢山の曲を演奏し、皆さんと一緒に楽しい時間を過ごしてきました。

ここ数年では瀬野キャンパス最高齢の利用者の卒寿のお祝いをはじめ、数名の還暦のお祝いも音楽活動内で行なっています。ささやかではありますが、リクエスト曲をプレゼントとして演奏し、大変喜んでいただいております。ある利用者さんはいつも最前列に座り、笑顔でとても柔らかい表情で演奏を聴いてくださるので、演奏者としてとても嬉しいですし、改めて音楽っていいなと実感できる時でもあります。

正直、練習が大変だと感じることもありますが、それ以上に私は音楽が大好きで利用者の方の笑顔を思い浮かべると頑張ることが出来ます。係の仕事ではありますが、大好きな音楽を続けられることに感謝もしています。

先日行われたサマーフェスタでは法被とねじり鉢巻きで演奏しました。すごく新鮮な気持ちで披露することが出来たように思います。

今後も音楽活動以外の支援でも一緒に楽しみながら利用者の方と笑顔で生活していきたいです。また、聴いてくださる方がいる限り、心を込めて演奏しながら、新しい事にも挑戦しつつ伝統を大切に、音楽活動を続けていきたいなと思います。

よっしゃあ、よっしゃあ頑張るぞ。よっしゃあ、よっしゃあ明日に向かって一歩ずつ。

知的障害者居住施設
安芸柏の実苑
（所在地）
広島市安芸区上瀬野
南一丁目338-3
TEL（082）894-8958

知的な発達に障害のある方の生活居住施設です。現在37才から54才までの男性20名が起居を共にし、農耕・軽作業・洗濯・清掃などの活動を通して社会参加をめざしています。

優しさ

安芸柏の実苑　中原　靖卓

先日、ラジオを聴いていたらこんな質問がありました。「赤信号で横断歩道を渡っている人がいます。あなたはどうしますか？クラクションを鳴らして注意するか、横断歩道を渡り切るまで待つか。どちらを選びますか？」という質問です。私は「横断歩道を渡り切るまで待つ」を選びました。質問は続き「どちらが横断歩道を渡る相手にとって優しい事をしていると思いますか？」という質問になりました。ここでも私は迷うことなく「横断歩道を渡り切るまで待つ」を選びました。

質問は終わりラジオの回答は「どちらを選んでも優しい事をしている」という事でした。ひとつは、横断歩道を渡り切るまで待つ優しさです。もうひとつのクラクションを鳴らして注意する方は、危険な事を教えて気付かせる優しさなのではないかと言われていました。

なるほどと思いましたが、注意された方の内心は腹を立てて素直に御礼を言えるかな？とも思いました。相手の事を考えて行動したつもりでも、相手にとって望まないことならいくら素晴らしい事をしても、優しさの押し付けになってしまい嫌な気持ちになることはどんな場面でもあると思います。

支援でも、利用者さんの事を考えた支援を提供したつもりでも、全く受け入れられず利用者さんに怒られることがあります。そんなときに先輩によく言われる言葉があります。「利用者さんの本質を理解して支援してほしい」利用者さんの言葉や行動の本当の意味を理解して支援しないと、ただの自己満足になってしまうのです。

困っている本質を探り、どんな言葉や行動を求めているのかを考えて動き、相手が望んでいる答えに近づけるように行動していきたいと思います。

知的障害者居住施設
瀬野柏の実苑
（所在地）
広島市安芸区上瀬野
南一丁目338-3
TEL（082）894-8958

知的な発達に障害のある方の生活居住施設です。現在38才から91才までの男女40名が起居を共にし、農耕・軽作業・洗濯・清掃などの活動をしています。また、年齢を考慮した体力維持の活動にも努めています。

自分で選択するということ

瀬野柏の実苑　**伊藤　麻菜実**

私は以前柏の芽で「人間の究極の幸せ」について書かせていただきました。（愛されること、褒められること、人の役に立つこと、人から必要とされること）今回はその逆で、「幸せに感じない理由」という言葉を紹介しようと思います。

幸せに感じない理由にも四つあり、一つ目は他人と比較すること、二つ目は愛さないこと、三つ目は今に感謝しないこと、四つ目は自分で選択しないことだそうです。四つ目は、まさに今、福祉で重視されている『意思決定支援』の考え方に繋がるのではないかと思います。

今、利用者さんに支援計画を立てる際に、本人に必要な情報を提供し、本人の意思や考えを引き出すなどし、自ら意思決定をするよう支援しています。「好きな食べ物を選んでみて」「どんな活動がしたい？」「これとこれどっちが良い？」など、選択する方法も様々です。ここで大切なのが、支援者側が〝良かれと思って〟や〝客観的に見て〟などの理由で勝手にその人の選択する権利を奪わない事です。その中で、その人に合った選択の仕方を私たち支援者側が見極め、分かりやすく説明をしたり、絵や写真で提示したりするなどして、利用者さん自身に選んでもらう事で、「自分で選択する」事が出来ます。

その為には、利用者さんと日々コミュニケーションを図り、利用者さんがどんな意思表示が出来るのか、何が得意で何が苦手なのかなどを、より深く知っていかなければなりません。

日常生活の中で、選択する場面はたくさんあります。その時、支援者として何が出来るのかを常に意識しながら、これからも当たり前の幸せが目の前にあるように支援していきたいです。

障害者生活支援事業
安芸柏の実苑通所部
（所在地）
東広島市志和町大字志和
堀字下十日市山337
TEL（0824）33-5690

知的な発達に障害があり、主にグループホームなどで地域生活をしている20名に、日中活動の場を提供しています。「志和福祉ランド」（東広島市）において、農耕・軽作業・洗濯などの活動を通して、社会参加や自己実現をめざしています。

よりよい生活を、送るために

安芸柏の実苑通所部　**友貞　仁美**

現在、グループホームにおられる利用者さんは、世話人、職員をはじめ、地域の方や、他にも多くの人に関わってもらいながら生活を送っています。

世話人には食事を作ってもらい、生活面の支援、体調管理等をしていただいています。

日中活動の場である通所部では、作業はもちろんのことですが、グループホームでの日々の生活の中で、利用者さんの苦手な事への支援も行っています。

休日には移動支援を使ってヘルパーさんと出かけています。行きたい場所が決まっている人は、そのことを伝え、一緒に楽しい時間を過ごしています。

私たち職員は、多くの場面で携わってくださる人たちから、利用者さんの様子を聞き、今後の支援に活かしていこうと思っています。話を聞いていると、今まで知らなかった部分が見えてくることもあります。

私たちは、多くの情報を受け取り、この利用者の方がどんな生活を送りたいのか、どうしていくことでそれが叶うのかを、これからも一緒に考えていきたいと思います。

終わりにはなりますが、グループホームの利用者の皆さんは還暦、米寿を迎えた方がいらっしゃいます。体調には気を付けながら、いつまでも健康で、楽しい生活を送ってほしいと思います。

地域支援事業

自分の事は自分で決める！

瀬野川学園相談支援事業所 相談支援専門員　次郎垣内　友成

新型コロナウイルス感染症が「五類感染症」になってから、友人、知人と笑顔で語り合える機会が増えている方も多いのではないでしょうか？コロナとの長い戦いの歳月で得た知識や経験をこれからの時代に取り込んでいく必要を感じています。

ある支援学校高等部の男子とのかかわりで、本人が不調を訴える事があり、話を聞く中で本人は「僕は今の学校には行きたくない。本当は高校受験がしたかったんだ！」と思いを伝えてくれました。中学卒業後の進路選択時には、両親、学校の先生と話し合いがなされ、本人の最善の選択肢を選ばれたのだと思いますが、本人にとってはそうではなかった、ということになります。本人が自分の考えや思いを伝える事ができなかったのかもしれません。良かれと思っていた選択がもしかしたら本人の思いとは真逆になってしまう事もあるかもしれません。

令和六年度障害福祉サービス等報酬改定が行われ、「意思決定支援」についてもクローズアップされています。「障害福祉サービスの提供等に係る 意思決定支援ガイドライン」に基づいた支援が求められています。また、ユニセフの子どもの権利条約のなかでも、四つの一般原則である「①差別禁止」「②最善の利益」「③生命・生存・発達の権利」「④意見を聞かれる権利」が保障されていることが求められます。日本の子どもに関する基本的な法律である「こども基本法」にも取り入れられています。

「自分の思いや考え」をどう支えていくのか、サポートする支援者として、利用者さんが意見を表しやすいようわかりやすい情報を提供すること、提示の仕方、話し合いの場面の設定を考えて行くことが大切だと言う事です。また、決まった事を本人が理解できるように伝えることも必要です。

公開療育

柏学園　木原　友梨

七月二十五日、柏学園において公開療育を実施しました。公開療育とは、保育園、幼稚園、認定こども園の先生や地域の保健師に柏学園の療育を知ってもらうことを目的として実施しています。沢山のお客さんに見られているお子さんの気持ちや行動を「予測」していくことを考えながら、通常の療育を行います。ドキドキするのかな、いつもよりテンションが上がるのかな、泣いてしまうのかな。お子さんの感じ方は様々だからです。環境の変化に限らず、「予測」することは日々の療育でも同じです。どのように関わっていくと安心して過ごす事ができるのかを考えることも準備段階で行ってきました。

当日、沢山の人がいる中で、〝何だかいつもと違うな～〟と周りをキョロキョロしながらお部屋に向かうお子さんたち。お部屋に入ると、朝の支度をした後、自由遊び、設定活動へと移ります。私のクラスの設定活動はクッキングでした。いつものように必要な材料を職員室に取りに行ってもらったのですが、そのお子さんはお部屋を出ると多くの人に少し圧倒されたかのような表情をしていました。ドキドキしているのかな？と感じつつもお友達と手を繋いで行動できる姿に頼もしさを感じました。頼まれたものを相手に伝えて持って帰ってくることはお子さんにとって、やりがいのあることです。言葉で伝えられるお子さんもいれば、言葉では難しいけれど、写真を見せて「これちょうだい」と伝えるなど、お子さんの発達段階に合わせて伝え方を工夫しています。お部屋に帰ってきたお子さんは、不安そうな表情から嬉しそうな表情へと変わっていました。今後も、お子さんが「できた！」「やったぞ！」と達成感があり、お子さんの次のモチベーションへとつながるお手伝いをしてもらいたいなと感じました。

お子さんの「やりたい！」というチャレンジ精神を大切にしていくことで、できた時の達成感や「褒められて嬉しい！」と感じる事が、お子さんの意欲を育てていけることだと思っています。これからも、そんな関わりをしていけるように頑張ろうと改めて実感した日となりました。

新たなスタートとチャレンジ

プレ・キンダーガルテンかしわ　渡辺　智栄

今年度プレ・キンダーガルテンかしわに配属されてから四ヶ月。初めて二歳児の子どもたちとのかかわりに日々奮闘中です。

これまで幼稚園で四年務めた後からの二十三年、瀬野キャンパスで利用者さんたちの支援や相談業務に携わっていました。瀬野でご縁のあった皆さまには大変お世話になり、感謝申し上げます。

現在五名の子どもたち。子どもたちの元気な姿は私の活力に繋がっています。とはいえ、現実は体力が追いつかない時もありますが、それなりに頑張っているところです。

ふと振り返る中で感じることは、子どもたちの発想のおもしろさです。創作活動やカレンダー作りなどでの一つ一つのパーツを貼りつける時、こちらが予想していない場所に貼りつけ、それぞれが個性ある作品、子どもたちなりのストーリーを作りあげていて、常に子どもたちの世界観に感心させられる毎日です。また子どもたち同士でも刺激し合う場面もあり、言葉には出ないものの「○○くんが出来るならぼくもやってみよう」「○○ちゃんみたいにやってみたい」という思いを持ってチャレンジして、出来た時に立ち会えた時のうれしさの共感は仕事へのやりがいに繋げてくれます。少し咳払いをすると「だいじょうぶ？」と子どもたちが声をかけてくれる優しさ。本当に小さな子どもたちから元気をもらっています。

四月当初は職員三名のうち二名が新しくなり、子どもたちだけでなく保護者の方たちにもご不安や戸惑いがあったと思います。それでも子どもたちの笑顔や何気ない会話、先生方がいつも助けてくださったことが今の自分の力になっていることは確かです。

五月は園庭のこいのぼりを愛で、夏には水遊びや夏祭りを楽しみました。これからの季節の行事や日々の活動をどのように展開すれば子どもたちが喜ぶか、また次のステップに向かって子どもたちが乗り越えようとする時に私たちがどのように支えていき、励ましていくか。これからもいろいろなことを職員間の対話を大切にし、今までの経験が活かされる場面には惜しみなく発揮し、子どもたちの成長を見守り、いつも笑いあっていきたいと思っています。

中部地区親善球技大会

柏の実苑　藤賀　景子

六月六日、東広島運動公園で中部地区親善球技大会が行われました。昨年度までは新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっており、五年ぶりの開催となりました。

柏の実苑は、グラウンドゴルフ、フライングディスク、ボッチャに出場することとなり、少ない回数ですが練習を行いました。利用者の方の中には、前回の中部地親善球技大会以来の競技練習となる方もおられ、感覚を掴むのに四苦八苦しながらの練習となりましたが、回数を重ねるうちに少しずつ感覚と自信が戻っていきました。

球技大会当日は、「楽しみじゃね」と久しぶりの球技大会を嬉しそうにされている方が多かったのですが、中には、前回の大会でボッチャ（二人制）とグラウンドゴルフ団体戦で優勝していたこともあり、今回も前回と同じようにいい成績を出さなくてはいけないと少しプレッシャーを感じ緊張されている方もおられました。また、雨が降ってしまうとグラウンドゴルフは中止になってしまう為、「雨降らんかね？」「グラウンドゴルフ出来るかね？」と天候を心配される方もおられるなど、不安と期待を膨らませての出発となりました。

東広島運動公園に到着してみると、出発前の不安を打ち消すかのように天候にも恵まれ、グラウンドゴルフ競技も無事行われました。利用者の方たちは、練習の成果を発揮しようと気合十分で競技に臨んでおられ、普段の練習とは違い広い会場でのびのびと競技されている姿を見ると、球技大会が開催されて良かったと実感しました。

今大会でも自分たちの力を十分発揮することができ、前回大会同様、ボッチャ（二人制）、グラウンドゴルフ団体戦で優勝することができました。またグラウンドゴルフでは、個人でも男性の部の二位と三位、女性の部の一位と二位という素晴らしい成績を収めることができました。

帰りのバスの中では、「勝った！」「（ディスクが輪に）入った！」と利用者の方の笑顔があふれており、思い思いに久しぶりの球技大会を楽しまれた様子が伝わってきました。そして、また来年も中部地区親善球技大会に参加することができ、今回のように利用者の方たちの笑顔が見たいと思いました。

七夕祭り

瀬野川学園　重永　美紅

七月五日、六日と七夕祭りを行いました。私は初めて係になり、昨年より何かパワーアップしたものが出来たらいいなと考えました。中村前園長からは「お前さん、新しい事なんかないか。利用者の為にやってくれよ」とよく言われていて、新しい事を考えて楽しんでもらうことを毎年目標にしています。なので今までやったことがなく、楽しい事は…と考えた時に、みんなでワイワイ流しそうめんが出来たらいいなと考えました。

当日までは、創作班に笹に飾る短冊や七夕の飾りを折り紙で作ってもらい、園芸班には流しそうめんで使用するネギを栽培してもらいました。流しそうめんの台は製作が得意な職員にお願いし、立派な流しそうめんの台を作ってもらいました。園芸班に植えてもらったネギは子どもたちと水やりをして「これいつ食べれるん？」「早く大きくならんかなー」とワクワクしながら水やりをしました。また自治会のメンバーには司会をお願いしていたので何度も練習に励みました。今回は利用者さんにも出来るところはお手伝いをお願いして、七夕祭りの準備に励みました。

いざ当日です。今回は寮毎ではなく、作業班ごとに分かれ、ここからさらにグループ分けをして、普段とは違うメンバーとの交流も兼ねて、〝楽しく〟を目標にグループ編成しました。「○○さんこっちよ」といつもとは違う顔ぶれにソワソワ。自治会長の利用者さんの司会でスタートです。七夕の由来を説明して短冊にお願い事をそれぞれ書きました。

その後はグループに分かれて、メインイベントのそうめん流しです。私の心配をよそに、流れてきたそうめんを、つゆにつけて上手に食べる利用者が沢山いらっしゃいました。一番前に居る利用者さんが沢山食べるのを見て、次にいる利用者さんが食べられず、箸を取り上げている光景には、思わずその場にいる人みんなで大笑い。みんなで順番に食べました。そうめんを取ることが難しい利用者さんは職員とペアになってわんこそばのように食べる姿もありました。暑い中みんなでやるそうめん流し、利用者さんより楽しんでしまうほどでした。

新しく取り組むことに不安や心配がありますが、それでも楽しんでいる姿を見てやってよかったと改めて思いました。利用者さん、職員、全員が楽しむ行事を今後も考えていきたいです。

木下大サーカス観覧

安芸柏の実苑通所部　木村　靖裕

七月十二日に、木下大サーカスを皆で観に行ってきました。三年ぶりの広島公演という事で、前回も観ていますが、皆さんに希望を聞くと、全員行きたいと大賛成でした。

当日は、早めに昼食を済ませ、十三時の開演に合わせて、マイクロバスで志和を出発しました。バスの中は、皆さんワクワクして会話も弾んでいました。

会場のマリーナホップに余裕を持って到着し、入場させてもらい、席にゆったり座れることが出来ました。夏休み前という事もあってか、お客さんは七割程で、外の暑さが嘘のように快適な涼しさ。そして、今回少し贅沢をして、よく観れる真正面の席を予約しました。テントの中は、少し暗く、サーカスの独特の備品がたくさん見えて、皆さん口々に、「あの大きな丸いのはバイクが走るよね」「あれは、ライオンの檻かね」と興味深そうに話しておられました。

さぁ、いよいよ開演です。二時間十分のエンターテインメントです。皆さんバランスショーに息をのみ、ライオン、シマウマ、ゾウの芸に大拍手。ピエロが近くまで来てくれたり、ハイタッチを試みるも、空振りしたりしながら楽しみ、あっという間に休憩タイムです。

ここからもう一つのお楽しみ、買い物時間です。私のグループは、外の売店をゆっくり見て歩き、ジュースやお菓子をそれぞれ買い、立派なパンフレットやキーホルダー、シール等を買った人もいました。

後半は、オートバイショーからスタートです。見どころたくさんで時間もすぐに過ぎてしまい、最後は空中ブランコです。天井近くまで行き交うブランコを見上げながら、皆から、ため息や感嘆の声が漏れていました。利用者さんから「空中ブランコをやってみたい」や「怖いから無理」等いろいろと話が盛り上がり、楽しい時間になりました。

終演となり、外に出てバスの迎えを待つ間に、テントを背景に全員で記念写真を撮り、名残惜しい中、サーカス会場を後にしました。

帰りの車内で皆さんの屈託のない笑顔を見るにつけ、日々の作業や社会体験で、自分の目で見て、感じる機会をより多く提供し、生きがいのある豊かな人生を送れるようサポートしていきたいと思います。

今おもうこと

趣味と実益

柏学園　坂井　由紀子

私の趣味は絵本集めです。子育てを通して絵本を集めるようになりました。子どもとおもちゃで遊ぶと眠たくなり寝てしまう私→起こされる→頑張って遊ぶけれどウトウトしてしまう→起こされ怒られるの繰り返しでした。何かいい方法がないものかと探して見つけたのが絵本でした。仕事上よく触れ合っているものだった絵本。読んでいれば眠くなりにくく一緒に遊んでいる感もあり子どもが満足するので私にとって素晴らしいアイテムでした。きっかけが少し残念なのですが段々と集めることが楽しくなってきて気がつくと一〇〇〇冊近くに増えました。子どもの読み聞かせの中で、どう読んだらより面白くなるのか、どう抑揚をつければ引き込めるだろうかと研究も兼ねつつ読んでいました。そして自分の子どもが夢中になった絵本を柏学園でも読んでみるとよく見てくれるお子さんが多く見られ、毎月絵本を持っていくようになりました。その時々でお子さんたちの好きな絵本が違い、どんな絵本であれば興味を示してくれるのかを探すのがとても楽しくなりました。お子さんたちが目をキラキラさせて見てくれることが本当に嬉しくて今後も素敵な絵本を探して行きたいと思っています。

子育ての中で

瀬野川学園　森本　梨江

私は、子ども二人の母親をしています。活発な年齢もあり、年中「あっちに行きたい、こっちに行きたい」と言われており、社会生活・対人関係・社会のルールやマナー等様々な経験をして欲しいことから出来るだけ希望する外出をしております。性別・年齢・個々の性格によっては年々趣味や興味が変化していくものだと思います。

コロナ禍では外出が思うように出来なく、それに伴い子どもの趣味や興味も年々違うものになっていきました。しかし、あの時行ってみたい・参加したい・遊びたいの言葉に耳を傾け、人が少ない所に連れて行ったり、外遊びでも楽しい遊び方を一緒に考えたりすることで楽しい思い出がひとつ増えたのではないだろうかと感じました。子どもたちの記憶にも残るものなので成長するにつれ、楽しい思い出話になったのではないかと感じています。

その思いもあり、施設の利用者さんに対しても外出を最大限に楽しんで欲しいと思います。学園では、家庭に近い環境で子どもたちと生活をすることを念頭に置いています。少人数で外に出て、社会生活や金銭を学び、楽しみながら買い物を行う自立活動訓練や、休みの日に行う調理実習があります。調理実習では、予め子どもたちからアンケートを実施し、食べたい物を決め、それに沿って買い物を行います。調理中は、鍋・包丁を職員と一緒に気を付けながら使用し、自分で自分の食事を作って盛り付けを行い、楽しみながら活動しています。

そのことから、外出や経験は楽しむ場・学ぶ場でもあるので挑戦できない環境を作らず、積極的に利用者さんの声に耳を傾け、思い出に残るような支援をしていきたいと感じております。

行事

第三十一回ふれあい祭を十月十二日に開催します。

ステージ・ゲーム・作品展示（飲食コーナーはありません）

九時三十分開始・十二時終了です。

是非お越しください。

ご協力いただいた関係団体

広島安芸法人会瀬野川支部
支部長　水野　修治様

株式会社大喜
代表取締役社長　柿田　勝司様

橋本　京子様

宗盛　幸江様

編集後記

夏の強い日差しも少しずつ和らぎ始めました。

今後も行事報告等、様々な記事を掲載していきたいと思っております。皆様のご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。